

チェルノブイリの現在

++原発事故から28年後のいま++

マリア・ブラトコフスカヤ

-非営利団体「チェルノブイリの子どもたち」

-社団法人「子どもたちに喜びを」

- (Gesellschaftliche Vereinigung -Den Kindern zur Freude)

monely@tut.by

チェルノブイリ原子力発電所



1972年

計画開始

1983年

4号炉 完成



チェルノブイリ原子力発電所



1986年
4月26日
1時23分44秒

実験中、4号炉
が爆発。
放射性物質が
放出する。

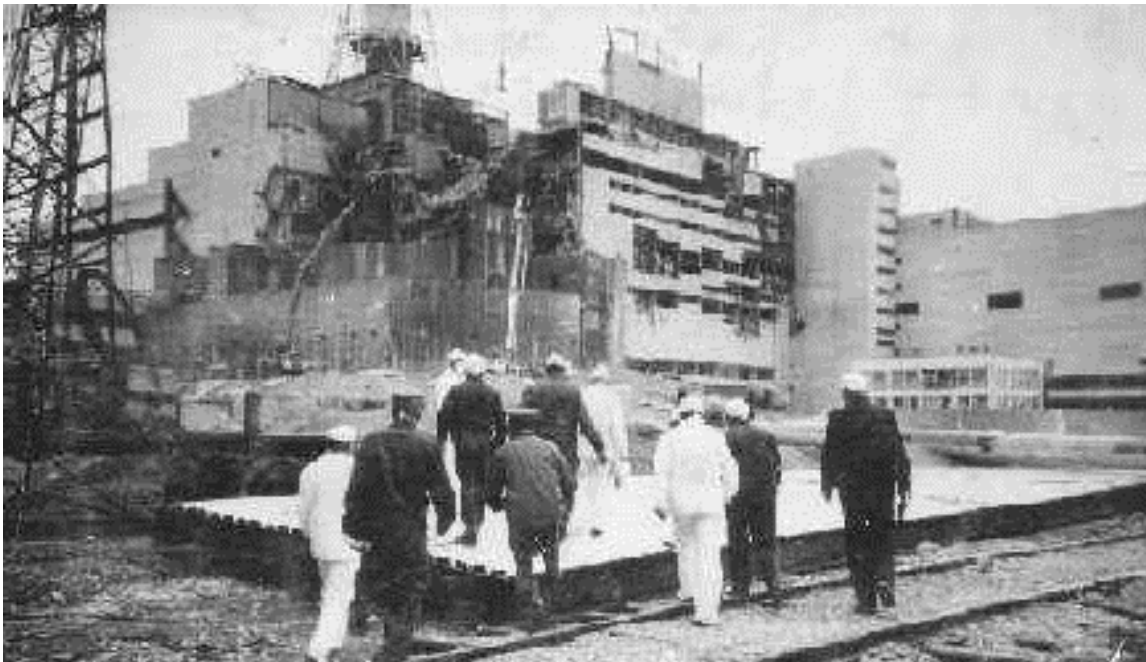


1986年4月26日の出来事

- ▶ 4月26日の夜、チェルノブイリ原子力発電所では、安全システムの実験が行われていた。実験中、既に問題が発生しており、操作員たちはますます不信に感じた。しかし、主任のAnatoli Djatlowは、何度も問題が発生しているのにも関わらず、実験を続行させた。
- ▶ 彼らは、この原子炉が、まだ安全が第一優先とされていなかった時代に建てられ、ゆえに建設不備があったということを知らされていなかった。
- ▶ そして1時24分、4号炉が爆発。大量の放射性物質が大気中に放出された。しかし、政治家たちは警報を出さずに、その事実を隠蔽しようとしたのだった

1986年
4月26日

186名の消防隊員
が消火にあたる。



1986年
4月27日

リクヴィダートル(事故処理作業員)が動員



- ▶ 正確な数字は分かってはいないが、60万～80万人の特に若い男性らがソ連中から集められ、事故後の放射能汚染地域で働いた。このリクヴィダートルと呼ばれる事故処理作業員たちは、4号炉の消火活動をなど、事故の影響がより拡大するのを防ぐために動員された。また、彼らは4号炉をコンクリートで覆う(＝石棺)作業や広大な放射能汚染地域での除染活動も行った。
- ▶ 事故処理に当たった作業員のうち約半数は、現在、身体に障害を持つ。核戦争防止国際医師会議によれば、事故処理作業員のうち、これまでに5万人は被曝が原因で亡くなったり、自殺をしている。
- ▶ そして、現在、事故処理作業員たちのがんの割合が著しく増加している。

1986年
4月27日

避難が開始される



- ▶ 住民たちの避難は遅々として行われ、一部の地域では全く行われなかった。そして、放射能汚染された雨の7割がベラルーシに降下した。

人々は、これから何世代にも渡って、汚染された地域に住まざるをえない。そして、一番の被害者である子どもたちは、病気や社会的排除で非常に苦しんでいる。

1986年 4月27日

1号、2号炉の
運転停止

1986年 9月

1号炉の運転再開

1986年 10月

1号炉の発電再開

1986年 11月

2号炉の運転再開



1986年12月
4号炉の石棺が完成する



1987年5月 5号炉、6号炉の建設の中止



1999年 チェルノブイリ原子力発電所の閉鎖



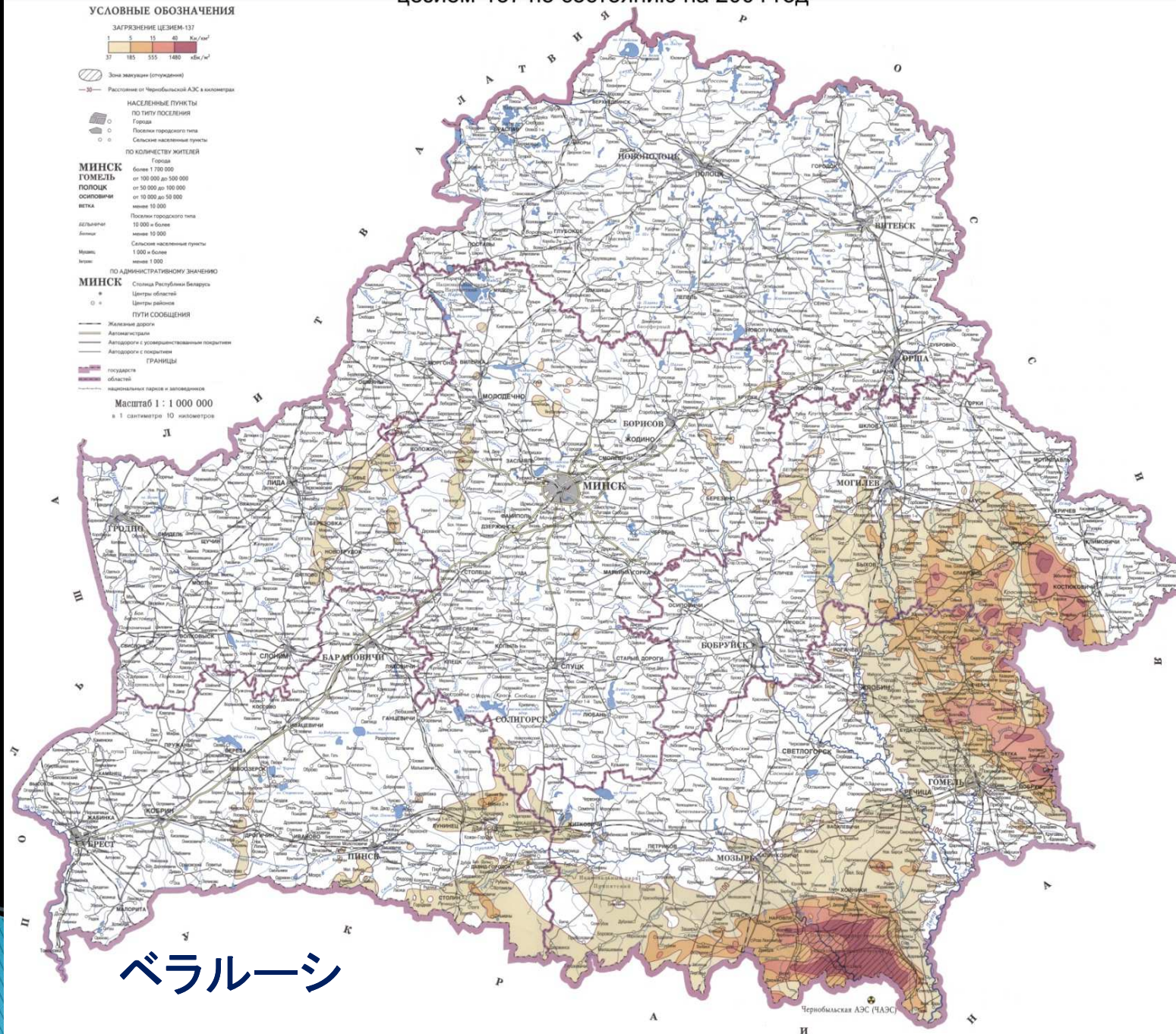
- ▶ チェルノブイリでは、すべての原子炉が停止している。
- ▶ しかし最大規模の事故にも関わらずウクライナ政府は4基の原発の建設を計画し、ベラルーシでも1基の原発がすでに建てられようとしている。



現在のチェルノブイリとその周辺地域

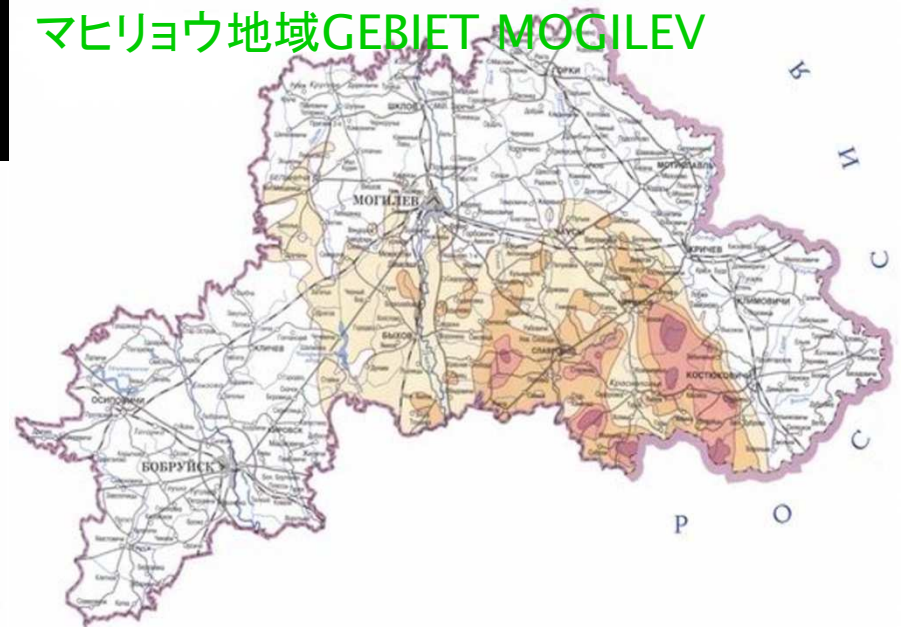
- ▶ チェルノブイリ原子力発電所はウクライナの、ベラルーシとの国境から16km離れた場所にあった。当時、チェルノブイリではベラルーシへの方
向へと風が吹いており、放射能汚染の7割が雨
となってベラルーシに降り注いだ。
- ▶ 国土の22%は放射能汚染の被害にあった。放
射能は、国、大地、そして住民を 永遠に苦しめ
るだろう。次世代の多くは、被災地域で著しく増
加している甲状腺がんなどの重病を患っている。
- ▶ また、子どもたちの病気や障害と上手く付き合え
ず、悩む親が増え、児童養護施設に入所する
子どもの数はますます増えるだろう。

Карта загрязнения территории Республики Беларусь цезием-137 по состоянию на 2004 год



ベラルーシ

マヒリョウ地域GEBIET MOGILEV



ブレスト地域GEBIET BREST



ゴメリ地域GEBIET GOMEL





立入禁止区域では、事故以前のように植物は生え、動物たちも暮らしている。



しかし、人々は依然として住むことはできず、今日まで最大の環境破壊の象徴である。



死んだ街



- ▶ チェルノブイリ原発事故は、原発事故の深刻度を示す国際原子力事象評価尺度において、一番高いレベル7だった。
- ▶ チェルノブイリの放射能は、地球全体に降り注いだ。大地は、セシウムやストロンチウム、プルトニウムのような放射物質によって、いつまでも汚染され続ける。放射能汚染は、パンや塩、水などいたるところに広がり、今の世代、そして次の世代の身体と精神をゆっくりと蝕んでいく。この影響にもっとも苦しむのは子どもたちである。
- ▶ 病気の中でも特に、免疫不全(チェルノブイリ・エイズ)、遺伝的損傷、甲状腺がん、腫瘍が非常に増加している。

人々は問いかけます。私たちに何が起きたのか。
未来に何が待ち受けているのか。
チェルノブイリの影響がなくなる境界はどこなのか。
この悲劇は戦争と比較されます。
その前と後とで、時代が転換したかのようです。

戦争は終わる、
しかしチェルノブイリに
終わりはない。

*Kriege enden,
Tschernobyl ist zeitlos...*

私とチェルノブイリ

マリア・ブラトコフスカヤ

私とチェルノブイリ

- ▶ チェルノブイリ原発事故は、世界の大惨事であり、私自身の人生にとっての大惨事でもありました。
- ▶ チェルノブイリ事故が起きた1986年、私は25歳でした。当時、例年よりも春が早く訪れたことでも喜んでいました。臨月に近く、第1子の誕生を心待ちにしていたときでした。
- ▶ 事故の影響は、Luninetz郡 Tschutschewitschi村にいた私にも及びました。
- ▶ 当時の私は、私たちの村までもが汚染され、そして生まれる前の我が子までも死がおそうとは知りもしませんでした。

- ▶ 私は、他の女性たちと一緒にミンスクの病院へと運ばれました。その病院にいた、様々な汚染地域（チェルノブイリと今なら分かりますが）から来た17人の女性たちは早産か、死産をしました。当時の私は非常にショックを受け、パニックに陥りました。
- ▶ どのように、そしてなぜ起こったのか。
- ▶ なぜ喜びではなく、深い悲しみが私を満たしたのだろうか。
- ▶ どうして我が子は生まれる前に死ななければならなかったのか。当時、誰も私にその答えを教えてくれる人はいませんでした。
- ▶ チェルノブイリ原発からの放射能が原因だったと今なら分かります。なので、非営利団体「チェルノブイリの子どもたち」で活動をしているのです。

「チェルノブイリの子どもたち」



1989年 ベラルーシで非営利団体「チェルノブ
イリの子どもたち」が創立

1. 独立した市民活動のため
2. ベラルーシ内の活動のため
3. 社会的自助活動のため
4. 東西の平和を願う活動のため
5. 基金自身がこうした活動を行うため





Gruschewoij
Gennadij



- ▶ 3か月前、当団体の創設者であるGennadij教授が、がんで亡くなりました。彼の遺言にはこう記されていました。
- ▶ 「5年前、白血病にかかったとき、私は自分にこう言いました。これまでの人生でずっと戦ってきた病によっ死ねるのだから、自分は幸運である。死とは、私の人生の論理的な完成を意味する。このような死は、神と運命からもたらされたのだ。もしチェルノブイリの負の連鎖を無視したら、ベラルーシの未来はないと、私は自身の宿命によって説得したいのだろう...」

「子どもたちの喜びのために」

2014年、「チェルノブイリ」という言葉の使用は禁止されたため、新たな名前で団体を登録しなければなりませんでした。3度目の試みで、今現在は社団法人「子どもたちの喜びのために」という名前になりました。

„Gesellschaftliche Vereinigung – Den
Kindern zur Freude“

チェルノブイリと福島では、最も大きな技術的
人為的な環境汚染が実例として残り、
その影響は予想できないほど果てしなく長く
続くでしょう。



追伸: 15年ぶりに訪れた、私の故郷の森です。
2014年4月2日

ご清聴ありがとうございました。

